

民主党の稚拙な外交。 戦後の外交史上、 最大の汚点。



民主党政権は、日本の主権と国益を守る政府の役割を全く果たしていません。

中国漁船衝突時の証拠ビデオの公開など日本の正当性を主張せずに、中国の圧力に屈する形で船長を釈放。

「**日本は圧力をかければ譲歩する国**」という誤ったメッセージを国際社会に与えてしまいました。

しかも、民主党は、釈放を検察の判断として責任を押しつけ逃げています。「**政治主導**」が聞いてあきれます。

本当に検察が外交上の配慮を理由に独自で判断したのであれば、これは明らかに検察当局の権限を越えるものであり、**法治国家の根底を揺るがす異常な事態**です。

私たち自民党は

日本国民の怒りと失望を同じ想いで受け止めています。
徹底的に民主党政権を追及し日本を守ります。

尖閣諸島の歴史的経緯と今回の事件

中国漁船衝突事件の混乱は、まさに民主党政権の稚拙な外交の結果です。戦後の日本外交史に最大の汚点を残すことになりました。

自民党は、今回の事件の経緯を徹底的に追及し、政府の姿勢を正し、日本の主権と国益を守るために全力を尽くします。

●尖閣諸島は日本固有の領土

尖閣諸島が日本の領土であることは、歴史的にも、国際法上も疑いがありません。このことを内外に明確にし、中国側の不当な主張を退けなければなりません。

そして、衝突時のビデオ公開などが国の正当性を情報発信し、東シナ海での警戒・監視の強化等を通じ、領土の保全と日本漁民の安全操業の確保を早急に進めなければなりません。

●民主党的稚拙な外交

しかし、民主党政権は、全く正反対の稚拙な対



応をとりました。「法令に基づき粛々と対応する」との方針が、中国側の圧力を受けた途端、突然に船長釈放という方針転換の腰砕け状態。国際社会に「日本は圧力をかければ譲歩する」という誤ったメッセージを発信してしまいました。

●検察に責任転嫁

さらに、民主党は、まさに責任を持って「政治主導」で解決すべき外交問題を、検察に責任を押し付けて逃げています。また、本当に地検が外交上の配慮を理由に独自で判断したのであれば、これは明らかに検察当局の権限を越えるものであり、法治国家の根底を揺るがす異常な事態です。

自民党は、民主党的国益を無視した稚拙で危ない政権運営を徹底的に正し、日本を守っていきます。

尖閣諸島の歴史的経緯

明治政府は、尖閣諸島がどの国の支配も及んでないことを10年にわたり慎重に確認した上で、明治28年1月に正式にわが国に編入しました。これは、日清戦争後の下関条約発効よりも前であり、下関条約で割譲された台湾及び澎湖諸島に、尖閣諸島は含まれていません。また、サンフランシスコ平和条約において日本が放棄した領土にも尖閣諸島は含まれず、沖縄・南西諸島の一部としてアメリカの施政下におかれましました。沖縄返還後は、当然、わが国の施政下に戻り、日米安全保障条約の適用範囲になっています。

中国が領有権について独自の主張をし始めたのは、石油資源が埋蔵されている可能性が指摘された1970年以降で、それ以前は日本による領有に異議を唱えたことは一度もありませんでした。



尖閣諸島付近で遭難した中国漁民を救助した日本人に対する中華民国からの感謝状。文中に「日本帝国沖縄県八重山郡尖閣列島」とあります。このように尖閣諸島はもともと中国側も日本の領土と認めていた地域です。